

## 第21回 掠の実句会

(二〇二二年七月五日)

兼題 「蛍」

2. 噴水へ腹ばひの手を伸ばしたる (ぼんだ) 5点

◎雀：子どもたちか、若い人か(と思いたい)。のびのびとした四肢。輝かしくて美しい情景。

59. 知られてはならじ草笛吹けぬこと (裕章) 5点

◎雀：せめて格好つけておく。人物が想像されます。

87. 蛍雪と言ふ語がふつと汗拭ふ (ようこ) 5点

◎雀：私たちはみな蛍雪には程遠い顔ですね。巧く兼題を生かしてくださいました。

1. 半夏生汲み水のきらりと零れ (翠筆) 2点

◎雀：破調が水のゆらぎを見せています。少し翳りのある半夏生の取り合わせがいい。

41. 暑いねと言へる相手がいて暑し (指月) 9点

◎りん：微笑ましい一句。暑い暑いと言ひ合える相手がいるのは幸せなことです。

117. 陵の草を刈らんと舟を出す (としこ) 8点

◎みさこ：こんもりを陵を覆う草の靡きが見えました。

109. 先がけて夕づく蛍袋かな (くるみ) 6点

◎とちおとめ：山中の蛍袋か庭隅の花かいづれにしたもひとときを蛍袋と一体となっている作者の眼が感じられます。

88. 白粥を存分に吹き半夏生 (せきれい) 5点

◎節子：何か底知れぬパワーを感じる。

103. 炎天に突つ立つ吾と自販機と (三晴) 4点

◎砂流：炎天下、飲料を冷やし続ける自販機。炎天下に立つ自分。どちらも大変！

136. 環七を鳩の流れる朝曇 (しっぽな) 2点

◎雀：渋滞の幹線道路から見上げた構図。朝曇りで鳩の群れが近々と感じられます。

93. みづうみの一の鳥居を夏つばめ (みやこ) 10点

◎裕章：何かしら敬虔な気持ちにさせられます。構成がシンプルなことも手伝って。

34. 栗の花盛りて山のおそろしく (からむし) 8点

◎千代志：栗の花の勢いに、確かにこんなふうに感じます。

26. 蛍火のつひえて水の音ばかり (千津子) 6点

◎小和楽：いつのまにか蛍がいなくなり気が付けば水の音だけが聞こえる。闇の深さが伝わってきます。